# 20［評論］『宗教と科学』

　近代科学のはじまりにおいて、その方法論の根本にいわゆるデカルト＝ニュートンの［　　Ａ　　］があることを忘れてはならない。

　デカルト＝ニュートン・［　　Ａ　　］において、最も大切なことは、①明確な「切断」の機能である。自と他を切り離すこと、精神と物質を切り離すことが第一の前提である。他から切り離された「自」が自と無関係に、「他」を観察する。その結果わかってきたことは、「自」と無関係である故に、誰にでも通用する［　　Ｂ　　］をもつ。このことは実にａイダイなことである。ニュートンの見出した法則は、ニュートンという人間、イギリスという国などを超えて普遍的な真理としても提出できる。もちろん、これに対して疑問を呈することは誰でも可能であり、その際は、ニュートンの行なったのと同じ実験を、彼の「自」を事象から切り離す方法をｂトウシュウして行い、ｃケンショウすることができる。論理実証主義という方法論によって、ある法則の正しさが、誰にでも何時でも、確かめることができるようになったのは、実に強力なことである。それのもつ普遍性というものが実に広いのである。

　自然科学の方法および、そこから得られる結果が普遍性をもち、その法則があまりに有効であるので、その方法を社会科学や人文科学が借りようとするのも無理からぬことである。そして、そのような方法によってそれなりの成果を得ている。そこで、自然科学の方法を人間に対しても適用することによって、「人間科学」が発展するわけで、生命科学などはこの部類に属するであろう。このような「人間科学」は今後ますます発展してゆくであろう。しかし、これだけによって、人間の研究のすべてをつくしているとは言い難いのである。

　ここで筆者の専門とする臨床心理学における例について考えてみよう。たとえば、ある非行少年に対して、われわれが「自」と「他」の区別を明らかにして、②極めて客観的な研究を行なった結果、その少年の非行の在り方、両親の生き方、友人の有無などから判断して、「再教育不能」と断定する。その後も、客観的観察を続けたところ、確かに非行はますます悪化し、先の科学的判断は正しいことが立証される。③このようなことをしても、まったくのナンセンスであることは誰しもわかるであろう。

　このようなとき、臨床家のこころみることは、前述した自然科学的態度とは異なって、その非行少年の行為を、「それを成り立たせている何らかの要素群に分解し」たりするのではなく、まず、その少年を一個の全体的な人間として、むしろ、「自」と「他」との区別をできるだけなくするようにして、彼とのかかわりを求めてゆくことである。われわれがそのような態度で接してゆくと、その少年はあんがいに本音で話をしてくれたり、誰にも話をしたことのない大切な秘密を打明けたりして、そこから、彼が立ち直ってゆくきっかけが開かれたりする。われわれが前述のような態度で接し続けていると、彼もだんだんと変化して立ち直ってくる。このような ｄカテイを記述することも、「人間の科学」であると言えないであろうか。

　キュブラー・ロスは死にゆく人を看とって、そのカテイとして一般的に言って、１ 死の否認、２ 怒り、３ （神との）取り引き、４ 抑うつ、５ 死のｅジュヨウ、の五段階を経ることを明らかにした。彼女のこのような発見は、現在においてターミナルケアをする人たちに対する重要な指針となっている。このことにしても、もしキュブラー・ロスが死んでゆく人を「客観的観察の対象」とする態度で接していたのでは、決して明らかにならなかったであろう。つまり、研究の対象である人間に対して、研究者がどのような態度をとるかによって、そこに生じる現象が異なってくるし、また、そのことこそが人間の研究にとって極めて大切なことである。

●語注

デカルト＝フランスの哲学者。二元論の哲学体系を確立した。

ニュートン＝イギリスの数学者、物理学者、天文学者。力学の体系を確立した。

ターミナルケア＝末期患者に対する、肉体的精神的苦痛を軽減させることを重視した医療・介護。

◆漢字

本文中の二重傍線部ａ～ｅのカタカナを漢字に直せ。

ａ〔　　　　　〕　ｂ〔　　　　　〕　ｃ〔　　　　　〕　ｄ〔　　　　　〕　ｅ〔　　　　　〕

問１　空欄Ａには「ある時代の科学者に共有されているものの見方や考え方」を意味する外来語が入る。最も適当なものを次から選べ。 8点

ア　アニミズム　　　イ　ナショナリズム

ウ　モラトリアム　　エ　ポストモダン　　オ　パラダイム

〔　　　〕

問２　傍線部①の意味として最も適当なものを次から選べ。8点

ア　事象に対する固定観念をもたないこと。

イ　事象の独自性を重視すること。

ウ　事象を主観的にとらえること。

エ　事象を客観視すること。

オ　事象を簡潔に理解すること。

〔　　　〕

問３　空欄Ｂに入る適当な言葉を本文中から三字で抜き出せ。

〔　　　　　〕

問４　傍線部②は具体的にはどのような方法を行ったのか。解答欄に合うように3段落以降から四〇字以内で抜き出し、最初と最後の三字を抜き出せ。 8点

〔　　　　　〕～〔　　　　　〕方法

問５　傍線部③とあるが、「まったくのナンセンスである」という理由を説明せよ。9点

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問６　本文の内容の説明として最も適当なものを次から選べ。9点

ア　近代科学の方法論は、現在のターミナルケアをする人たちにとって、重要な指針を与えた。

イ　自然科学的態度は、臨床心理学における中心的な姿勢で、非行少年の更生にも生かされている。

ウ　近代科学の方法論は、対象を要素群に分解することだが、すべての対象に対して有効だとは言えない。

エ　「人間科学」は、自然科学の方法によらず、相手を一個の全体的な人間として関わろうとするものだ。

オ　社会科学は、自然科学の方法を用いることによって成果を得たが、それは無理を強いた結果であった。

〔　　　〕

【解答】

漢字　ａ偉大　ｂ踏襲　ｃ検証　ｄ過程　ｅ受容

問１　オ

問２　エ

問３　普遍性

問４　非行少～りする（方法）

問５　非行少年を立ち直らせることはできないから。

問６　ウ

■覚えておきたい語句

□7　普遍……………………すべてのものに通ずる性質。〔反〕特殊

□18　客観……………………認識や行動の対象。主観から独立して存在すると考えられるもの。世界や自然など。客体。〔反〕主観

□31　指針……………………物事を進めるうえでの方針。手引き。

□32　対象……………………目標や相手のこと。〔外〕オブジェクト

□問２アニミズム……………すべてのものに霊や魂が宿っているとする考え方。

□問２モラトリアム…………物事の遂行や支払の猶予。

□問２ポストモダン…………近代主義を乗り越えようとする態度。脱近代。

□問２パラダイム……………ある時代の、ものの見方・考え方を支配している思考の枠組み。規範。

〔要　約〕

　柱の段落を核にして、筆者の主張が明示されているところをつなぎ合わせる。主張の論証事例は省く。

［1］・［2］段落 　話題の提示

［3］段落　　　　筆者の主張

［4］・［5］段落 　事例・具体例

［6］段落　　　　筆者の主張

《［3］・［6］段落を要約することで文章全体の要約とする》

　　　↓

自然科学の方法を人間に適用することだけによって、人間の研究のすべてをつくしているとは言い難い。研究対象である人間に対して、研究者がどのような態度をとるかが、人間の研究にとって極めて大切なことである。（99字）

〈筆者＆出典〉河合隼雄（かわい・はやお）一九二八年（昭和３）～二〇〇七年（平成19）兵庫県生まれ。専門である臨床心理学にとどまらず、日本文学や神話、昔話と広く人文科学に通じており、著作は、『昔話と日本人の心』など多数。本文は、『河合隼雄著作集第11巻』「宗教と科学」（岩波書店、一九九四年）より。

【読みのセオリー】

★説明の仕方を考えよう

　ナンセンス、つまり「意味がない」理由を説明するためには、まず、「本来あるべき状態」を把握する必要がある。

　その上で、「本来あるべき状態ではないから」という方向性で具体的に説明をしていけばよいのである。

■読みのセオリー［実践］説明の仕方を考えよう

問５

［意味がない状態］

極めて客観的な研究を行なった結果、非行少年の再教育は不可能と断定し、その後の観察で、それが正しいことを立証する。

　　　＝

このようなことをしても、まったくのナンセンスである。

　　　⇔

［意味がある状態］

われわれが、彼（＝非行少年）とのかかわりを求めてゆくような態度で接してゆくこと。

　　　＝

そこから、彼が［　　　　　　　　　　］が開かれたりする。

〔解答〕　立ち直ってゆくきっかけ

☆「セオラム補充問題」　問題は、次の３種類があります。

　　＊差し替え　　　……該当の問と差し替えるもの

　　＊追加　　　　　……同じ問で、追加された問題

　　＊新問　　　　　……追加可能な新たな問題

＊新問

問　4行目「他から切り離された『自』が自と無関係に『他』を観察する」姿勢を表した表現を、［2］段落以降から七字で抜き出せ。

［答］ 自然科学的態度

＊新問

問　14行目「自然科学の方法を人間に対しても適用する」とあるが、その具体例にあたる表現を［6］段落から抜き出せ。

［答］　死んでゆく人を「客観的観察の対象」とする